

2025年度 放課後等デイサービス評価表（事業所向け）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○			指導訓練室を1階、2階に配置し、活動プログラムやお子様の状態等に応じて使い分けができるようにしています。
	2	利用定員やこどもの状態に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			熊本市の定める指定基準を遵守しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		活動、学習スペースを設定しておりますが、更衣、静養スペースはお子様の成長に合わせた改善が必要だと考えています。身体面で配慮が必要な方には不便をおかけする環境ですが、必要に応じて合理的配慮を行なっています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			毎日活動箇所とトイレの清掃を実施しております。また、感染対策として、通年を通して定時の換気を実施しています。活動内容によって、1階、2階の指導訓練室を使い分けるようにしています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することがみとめられる環境になっているか。	○			休憩したり、気持ちを落ち着かせたりできるように、希望や状態に応じて個室で過ごせるよう配慮しています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎月事業所会議を実施し、定期的に業務の見直しを行っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			年に1回放課後等デイサービス評価に関するアンケートを実施しています。また、モニタリング時等に事業所へのご要望についてもヒヤリングを行い、事業所運営に反映するようにしています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			毎月の事業所会議、個別支援検討会議、カンファレンスの中で業務、支援に関する意見交換を行っています。また、半年に1度、管理者との1on1ミーティングを実施しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○	第三者評価等はまだ実施しておりません。
	10	職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			本人の希望やキャリアに応じて外部研修に参加する機会を設けるとともに、内部研修等も実施しております。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			支援プログラムを作成し、めいとか BUDDYの公式Instagramで公表しております。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	○			日々のアセスメントおよび本人、保護者様のご意向を必ずお伺いし、必要に応じて関係機関のご意見も踏まえ個別支援計画を作成しております。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	13 個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			個別支援検討会議の中で、職員全員で定期的なアセスメントシート見直しをしています。また、児発管が作成した個別支援計画の確認と支援の方向性の共通認識がもてるようにしています。
	14 個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			支援の方向性や支援の実施状況、支援内容の修正・変更などは朝礼や支援記録を通して共有しております。必要に応じてケース会議等を開催しております。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」「認知・行動」「感覚・姿勢・運動」「健康・生活」の5領域を押さえたアセスメントシートを使用しています。また、日々の行動から気づいたことを支援記録に記し、アセスメント情報が蓄積されるようにしています。
	16 個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容もふまえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			ガイドラインに則り、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」について個別支援計画を作成し目標を設定しています。「地域支援・地域連携」についてはこどもの状態や環境に応じて適宜示します。“名前を伏せても誰の支援計画なのかが分かる”よう、個別化された具体的な支援目標、支援内容となるよう意識しています。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			主に児童指導員が原案を作成し、児童発達支援管理責任者が個別支援計画やニーズに沿った活動が提供できるようすり合わせをし実施しています。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			活動は曜日固定にせず、例えばお子様に人気のおやつ作りなどは、まんべんなく体験していただけるようにしています。効果測定のため同じ活動を繰り返すこともありますが、指示の出し方や難易度などは都度見直しています。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			個別、集団において得られる効果をねらった個別支援計画を作成し、支援しています。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			毎朝必ず朝礼（長期休み時は前日に終礼）を実施しています。活動内容、送迎、職員の動き等について確認をしております。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○			連絡帳の入力については、関わった職員全員で記載または確認することで、情報共有を図っています。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			連絡帳に記載した内容をもとにケース記録をとっています。とくに気になる様子については必ず残すようにし、行動の分析に繋がれるように心がけています。
	23 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			少なくとも6ヶ月に1度モニタリングを行い、継続が必要な場合でも支援内容や目標を見直しています。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			「①日常生活の充実と自立支援」「②多様な遊びや体験活動」「③地域交流の機会」「④こどもが主体的に参画できる活動」を提供しています。今年度は特に④を重視し、こどもたちが主体となって外出の計画を立てる活動をシリーズ化して実施いたしました。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			おやつは選択できるよう複数準備しています。また、行動面の支援が必要なこどもには、その日の行動目標をご自分で立てられるよう支援しています。今年度は、お出かけイベントをこどもたちで計画できるよう支援いたしました。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			児童発達支援管理責任者や必要に応じて児童指導員も同席するようにしております。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			こどもを中心としたエコマップを作成し、生活や発達を支える人、関係機関について把握し適宜情報共有を図っています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			新規契約時は、各学校へ送迎開始の旨を文書にてお知らせしております。担任の先生について必ず把握し、下校時間の確認や問題があった際の対応について連絡・相談ができるようにしています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			放課後等デイサービスへの移行時担当者会議時に情報共有を図っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○		今年度は事例がありませんでしたが、他サービスへ移行されたケースでは、サービス担当者会議に出席し情報の提供を行いました。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言、研修を受ける機会を設けているか。	○			自立支援協議会こども部会区部会において、グループワークや事例検討に参加しております。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域の公園や公共施設へのお出かけ、どんどやなど地域行事へ参加する機会を通して交流の機会を設けております。
	33	自立支援協議会等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会こども部会区部会に参加しております。また、熊本市知的障がい者施設協会児童部会にも参加しております。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			ご利用時の連絡帳を通して、発達面への気づきを共有しご意見等をいただくようにしております。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族・きょうだい児交流を目的としたBUDDY×FAMILYミーティングや学習の機会提供としてこどもみらいセミナーを開催しています。また、各種団体が開催する研修、セミナー等のご案内について適宜情報提供を行っております。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	36	運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			ご見学時やご契約時に重要事項等説明書、契約書をもとにご説明しております。
	37	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			個別支援計画作成時には、必ず「アセスメント面談」を実施しております。また、ご家族の話や職員間でこどもの直近の嗜好や希望を把握するようにしています。
	38	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	○			できる限り対面でご説明いたしますが、ご家族のお仕事の都合等により叶わない場合は、お手元に個別支援計画書がある状態でお電話や文書等でご説明しております。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			ご相談は随時受け付けております。対面や電話、メールなど保護者様のご相談がしやすい方法で実施いたします。また、アセスメント面談や担当者会議ではご家族のお困りことを言語化できるような関わりを心がけています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			家族・きょうだい児交流を目的としたBUDDY×FAMILYミーティングや学習の機会提供としてこどもみらいセミナーを開催しています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			ご家族からのご意見を伺い、苦情としてお受けすることが望ましいと判断し迅速、適切に対処いたしました。苦情については、事業所側から受けにくい姿勢が必要と感じています。
	42	定期的に通信を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			InstagramやHUG（ICTツール）を通して活動の様子をお知らせしています。活動・行事予定、行事のご案内についてはプリントで配布も行い、こどもも確認できるようにしています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報保護規程に基づき取り扱っています。
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			言葉での発信が困難な子どもに対しては、必要に応じてコミュニケーションボード・絵カード等を活用しています。また、営業時間外でもご連絡を受付けようHUG（ICT）を活用しています。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を計っているか。		○		地域行事への参加や地域清掃等を通して交流の機会が得られるようにしています。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を行っているか。	○			非常時の各種マニュアルを整備しております。防災訓練の様子は、連絡帳やInstagramでご紹介いたしました。防災訓練についてはさまざまな状況を想定し、お子様を守り抜くチカラを高めています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			今年度は消火訓練、避難・通報訓練、地震想定避難訓練、不審者想定避難訓練を実施いたしました。また、BCP訓練として職員が感染症に罹患した設定で事業を継続するためのシミュレーション訓練を実施しました。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	改善目標、工夫している点など
非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			アセスメント時に服薬、発作、アレルギーの有無等について確認しております。定期的にアセスメント実施時に服薬状況に変わりがないか確認しております。
非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			アレルギーのある食品を把握し、おやつや調理時には提供しないようにしております。万が一摂取しアレルギー症状が出た場合の対応についても把握するようにしております。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を作成し、計画に則り各種点検や整備、防災訓練を実施しています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携がはかれるよう、安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知しているか。	○			感染症や熱中症予防など、季節ごとのリスク回避スキルが獲得できるような集団プログラムを提供し、取り組み状況を連絡帳等でお知らせしています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			事業所会議内で過去1カ月のヒヤリハット事例を振り返り、再発防止について協議しています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			年3回、虐待防止、身体拘束防止に関する研修を実施しています。また、月毎の権利擁護スローガンについて目標立て、振り返りを行っています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	○			身体拘束について個別支援計画に記載しております。突発的な他害行為などやむを得ず行動制止等を行った場合は記録を残し、ご家族への説明も行っています。また、虐待防止委員会にてその行動制止が適切であったか検証しています。

2025年度 放課後等デイサービス評価表（保護者様向け）

公表日：2026年2月9日

アンケート期間：2025年11月26日～12月26日

事業所名：放課後等デイサービス めいとくBUDDY

対象人数（保護者）：15人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	事業所より
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					指導訓練室を1階、2階に設定し、活動プログラムやお子様の状態等に応じて使い分けができるようにしております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					熊本市の定める指定基準を遵守しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	92%			8%	たまにしか行く機会がなく、分からない部分ですみません。	活動、学習スペースを設定しておりますが、更衣、静養スペースはお子様の成長に合わせた改善が必要だと考えています。身体面で配慮が必要な方には不便をおかけする環境ですが、必要に応じて合理的配慮を行なっています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	100%					毎日活動箇所とトイレの清掃を実施しております。また、感染対策として、通年を通して定時の換気を実施しています。活動内容によって、1階、2階の指導訓練室を使い分けるようにしています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の有資格者、強度行動障害支援者養成研修（応用・基礎）受講者を配置しています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					当事業所の支援プログラムと放課後等デイサービスガイドラインをベースに支援サービスを提供しています。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					個別支援計画作成にあたって、必ずご家族との面談を実施しており、事業所内でもお子様の発達や希望、取り巻く環境をアセスメントしています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					ガイドラインに則り、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」について個別支援計画を作成し目標を設定しています。「地域支援・地域連携」についてはこどもの状態や環境に応じて適宜示します。「名前を伏せても誰の支援計画なのか分かる」よう、個別化された具体的な支援目標、支援内容となるよう意識しています。
	9	個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					個別支援計画の実施状況について日々の記録に反映するようにしています。適宜、チームで支援ツールの見直しや進捗状況を確認しています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%				▶いつも楽しい活動で子ども喜んでいきます。 ▶いろんなプログラムがあって予定表を見ると、「おー!!」といつも感心します。	活動は曜日固定にせず、例えばお子様に人気のおやつ作りなどは、まんべんなく体験していただけるようにしています。効果測定のため同じ活動を繰り返すこともありますが、指示の出し方や難易度などは都度見直しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	25%	17%	8%	50%	▶定期的な交流は難しいと思いますが、学休日に地域の行事に参加したり、地域の公園に出かけ遊ぶ機会を設けてもらっています。 ▶機会があるのかを把握しておらず、すみません。	地域の公園や公共施設へのおでかけ、どんどうなど地域行事へ参加する機会を通して交流の機会を設けております。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					ご契約時には重要事項等説明書、契約書をもとにご説明しておりますが、ご不明な点があればいつでもお尋ねください。
	13	「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					できる限り対面でご説明いたしますが、ご家族のお仕事の都合等により叶わない場合は、お手元に個別支援計画書がある状態でお電話や文書等でご説明しております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%				研修のご案内はいただきますが、なかなか参加できていないのが残念です。	9月にBUDDY×FAMILYミーティングを開催いたしました。年度末3月にも、家族交流を兼ねたセミナーを開催する予定です。（R8.1月時点）
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%				HUGでくわしく活動のないようや子ども様の様子を書いて下さるのでわかりやすいです。	HUG内のサービス提供記録や送迎時に対面での申し送り、お電話など、ご家族様に伝わりやすい方法で共有することを心がけております。事業所で発熱された場合などは、迅速な連絡を行い、可能な限りこちらからお送りすることで、ご家族様が通院の準備を整えられるよう配慮しております。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	83%	17%			モニタリングや送迎でお会いした時などに話もきいてもらっています。	個別支援計画作成時期にはアセスメント面談（対面、電話等）を実施しています。アセスメントが主目的ですが、お子様の課題を共有しご家庭とBUDDYで何ができるかを話し合う機会にもなっていると思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					お子様やご家族の価値観や考えを否定するような関わりはしません。なぜそう考えたか、なぜそのような行動をするのか、背景やきっかけに着目し理解するよう努めています。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	事業所より
保護者への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	83%			17%	▶きょうだい児と一緒に参加しても楽しめるような活動を計画してくださっていると思います。 ▶家族ミーティングで他の利用者のママから色んな話が聞ける機会があり、楽しみにしています。 ▶ファミリーミーティング、家族で参加できてとても楽しかったです。特に同じお母さん同士で色々と話ができて良かったです。 ▶予定の多い時期で参加できませんが、Instagramで活動内容が分かるので良いと思います。	BUDDY×FAMILYミーティングでは、きょうだいでても参加していただけるよう企画しています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					要望・苦情等申立先、虐待防止に関する相談窓口について、また、当事業所への相談が難しい場合には、第三者委員や熊本市、運営適正化委員会へ相談ができることについてご説明しております。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				モニタリングや送迎などでお会いした時に話もきいてもらっています。	HUGでは営業時間外でもメッセージを送れるため、思いついた時、手が空いた時などにご連絡いただけます。面談や担当者会議だけでなく、送迎時に会いする機会に気づいたことがあれば直接お伝えするよう心がけています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	92%	8%				HUGやInstagramを通して活動の様子をお知らせしています。また、HUG内『活動記録』でも定期的にマニュアルやイベント、自己評価の結果についてご紹介、ご報告しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					個人情報については、法人共通のマニュアル・行動指針等に基づき適切に取り扱っております。子どもへの啓発についても必要性を感じておりますので、SST等で伝えていけたらと考えております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	92%			8%		非常時の各種マニュアルを整備しております。防災訓練の様子は、連絡帳やInstagramでご紹介いたしました。防災訓練については、さまざまな状況を想定し、お子様を守り抜くチカラを高めています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%				▶水消火器を使用した訓練や公衆電話を使用する訓練などプログラムを工夫して下さり、いざという時に備えるスキルが育っていると思います。 ▶公衆電話の使い方などは、これからも定期的に続けてほしいです。	放課後等デイサービスには年2回以上の避難訓練が義務付けられており、今年度は消火訓練、避難・通報訓練、地震想定避難訓練、不審者想定避難訓練を実施いたしました。発生時だけでなく、公衆電話の使い方など、“災害後生き抜くスキル”を身につけていただくことを一番の目的として今後も実施していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					安全計画をもとに、また、定期的に安全点検を実施し、破損・危険箇所の有無について確認をしています。近年、夏季は高温となるため、塩分タブレットやスポーツドリンク、冷却剤などを熱中症対策を講じています。
	26	事故等（怪我等を含む）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					事故発生時はお子様の安全を確保し、その後の段取りを整理した後速やかにご家族へご連絡し状況を説明しております。お子様の安全、安心を第一に対応いたします。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%				▶本人が毎日通いたいと希望するくらい、先生方との活動を楽しみにしています。	今後もめいめいBUDDYが、お子様にとって「もう一つの居場所」となり、ありのままで過ごせる環境をつくっていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%				▶毎日楽しく通ってくれ、安心していきます。 ▶色んな活動や楽しいお出かけ活動もあり、いつも楽しそうに通っています。お友だちとも良い関係が築けていると思います。 ▶毎回うれしそうに、特にお出かけ時はニコニコで行っています。	集団プログラムをはじめガチャガチャや「みんなで大きい絵をつくろうプロジェクト、余暇活動など、それぞれに支援目標やねらいを持たせていますが、「こどもが楽しいかどうか」の視点、遊び心を忘れないようにしています。しかし、こども同士の繋がりに勝るものはありません。学校や発達特性はみなさん異なりますが、お互いに影響し合い、成長していけるよう今後もサポートしてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				とても満足しております。沢山の経験や自立に向けての支援をしていただきとても感謝しております。	日頃よりめいめいBUDDYのサービスにご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。これからはお子様への支援はもちろん、ご家族の皆様にも安心していただけるよう最善を尽くしてまいります。
意見・要望	30	その他ご意見、ご要望がございましたらご記入ください。					▶保育所等訪問をしていただいてはませんが、送迎時に変わった様子があれば先生に尋ねてくださったりと学校とも連携していただいているのでありがたいと思っています。いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。 ▶いつもありがとうございます。いつも親切に子どもに接していただき、また、バス登校の練習をしていただき感謝しかありません。子どもが登所することをとても楽しみにしており、すばらしい所だと確信しております。 ▶パティさんでの活動や先生方との関わり方が合っているようで、活動内容を探るくらい楽しみにしています。笑顔で過ごせる場所があり嬉しく思います。ありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	めいとくBUDDY			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 26日		～	2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 11月 26日		～	2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの「子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられている」という評価が100%であり、スタッフの質の高さが最大の強みです。	・社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などの有資格者や、強度行動障害支援者養成研修の受講者を配置しています、 ・お子様のための発達や希望、環境を具体的に反映させた個別支援計画を作成しています。 ・5領域を押さえたアセスメントシートを活用し、日々	・外部への研修の参加機会の確保に加え、内部研修も継続し、職員の当面の向上を図っていきます。 ・客観的な視点から支援の質を検証する体制を整えることが課題として挙げられます。
2	・「通所を楽しみにしている」割合が100%であり、楽しみながら学べる環境を提供しています。	・活動を曜日固定にせず、人気のおやつ作りなどを全員が体験できるよう配慮し、指示の出し方や手順も都度見直しています。 ・避難訓練では「発生時」の動きだけでなく、公衆電話の使い方など、災害後に「自力で生き抜くためのスキ	・お子様の成長に合わせ、更衣スペースや静養スペースの改善が必要です。 ・言葉での発信が難しいお子様に対して、コミュニケーションボードや絵カードの活用をさらに進めていきます。
3	ご家族同士の交流や、きょうだい児への配慮など、家庭全体を支える姿勢が評価されています。	・「BUDDY×FAMILYミーティング」を定期開催し、ご家族同士の悩みや情報を共有できる場を提供しています。イベントにはきょうだい児も参加できるよう企画しています。 ・ICTツール（HUG）を活用し、営業時間外でもメッセージを送れる体制を整えることで、保護者の心理の負	・SNS等での情報発信について、ご家族の認知度が低いという結果を受け、より確実に情報が届く発信方法への改善が必要です。 ・家族交流イベントでは、BBQやレクリエーションなど、より交流できる家族参加型イベントのバリエーションを増やすことを検討しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「バリアフリー化や情報伝達への配慮」について、設備面での限界を認識している。	・開所当初の設備設定に対し、利用しているお子様が成長（体格の変化や思春期への移行など）したことで、既存の更衣スペースや静養スペースの広さ、仕様が現在のニーズに合わなくなってきました。 ・建物自体の構造上、身体面で特別な配慮が必要な方に対して、完全なバリアフリー環境を提供できない状況です。	・お子様の成長段階に応じたプライバシー確保のため、更衣、静養専用スペースの設置やレイアウトを変更する。 ・ハード面の改修が困難な部分は、職員の介助体制や動線の工夫といった「ソフト面での合理的配慮」をご家族と共有する。
2	事業所側はSNSやICTツール（HUG）で積極的に発信している認識ですが、ご家族向けアンケートの結果に示される通り、情報が届いていない。	・InstagramやHUGは「日々の活動報告」としては有効ですが、運営方針や自己評価結果といった「重要事項の定期的報告」としては保護者に認識されにくい。 ・ご家族がICTツールやSNSをチェックする頻度や習熟度に差があり、重要な情報がタイムラインに埋もれてしまっている可能性があります。	・デジタル発信に加え、紙媒体の「事業所通信」の定期発行や、連絡帳への重要事項掲示のお知らせなど、確実に目に入る工夫を行う。 ・事業所の評価や方針に関する報告を明確に区別し、ご家族が「何を確認すべきか」を分かりやすく提示する。
3	自己評価項目において「第三者による外部評価」が実施できていない（いいえ）となっており、組織運営の透明性を担保する客観的視点が不足している。	・日々の支援や家族支援（ミーティング等）に注力する一方で、外部機関による客観的な評価を受けるための体制整備が後回しになっている。 ・外部評価を受けていないことが、地域交流の成果（保護者の50%が「わからない」と回答）などが客観的に証明されない要因の一つとなっている。	・第三者機関による評価を受け、サービスの質を客観的に裏付けること。 ・匿名性の高いアンケートの定期実施など、意見を吸い上げる仕組みを構築する。